

たけふ

TAKUSUI
No. 647

兵庫の漁業人のための情報誌

9

September, 2010

発行 (財)兵庫県水産振興基金



大阪湾内の数少ない自然海岸・西宮市夙川河口の「御前浜・香櫨園浜」

Report

**「大阪湾圏域における海域環境の再生・
創造に係る研究」発表会報告**

淡路漁青連・但馬漁青連の視察研修報告

中堅・若手研究者による先進的な 研究課題12件の成果発表会が神戸で

「大阪湾圏域における海域環境の再生・創造に係る研究」助成事業

大阪湾広域臨海環境整備センター・瀬戸内海研究会議共催



成果発表会の様子

7月29日(木)、三宮研修センターにおいて、大阪湾広域臨海環境整備センターと瀬戸内海研究会議の共催で、「平成21年度大阪湾圏域における海域環境の再生・創造に係る研究の助成事業成果発表会」が開催され、昨年、同センターの研究助成事業で研究課題に採択された12課題について、成果発表が行われました。大阪湾圏域における植物プランクトンの季節変動、海産バイオマスのメタン発酵・堆肥化、地下水と生物環境、新設浅場の機能評価と底質劣化の関係など視点を変えた研究調査内容であり、さらに継続研究となるものの複雑な海域環境の課題解明につながるような成果が期待されます。

この発表会は、近畿2府4県168市町村域から発生する廃棄物の最終処分を受け持つ同センターが、ゴミの「リデュース(減量)」「リユース(再利用)」「リサイクル(再資源化)」いわゆる3Rによる循環型社会形成の推進や、人と自然の共生など社会情勢の変化をふまえて、本来事業の環境保全管理対策だけでなく、広く環境問題に取り組む市民や研究者の活動を支援する助成事業を通じて環境施策の普遍化を目指すというもの。対象は中堅・若手研究者の先進的な研究課題の中から応募採択されたもので今回が初めて発表会です。

これらの研究成果は、今、本県が取り組んでいる

瀬戸内海再生法(仮称)の法案づくりに理論的に新たな示唆を与えることが期待されます。

現行瀬戸内海環境保全法が制定されて35年。瀬戸内海は見た目“きれいな海”ですが、決して水産資源等の“豊かな海”ではありません。当時の社会環境を反映し「陸からの視点」でつくられた現行法は一定の成果を得ましたが、豊かな海へ環境再生には「海からの生物的視点」で新たな法整備が必要です。しかし、新法制定へ道程は遠いでしょう。特に政府・国会関係者に瀬戸内海の海域事情や環境実態を効果的に説明し、水産資源等生物的視点にどこまで認識を深めてもらえるかが重要です。これまで瀬戸内海研究会議(会長:松田治広 大名誉教授)、あるいは(社)瀬戸内海環境保全協会(会長:井戸敏三 兵庫県知事)等が藻場・干潟・浅海域の特性、潮流変化、里海理念など様々な視点から「豊かな海・瀬戸内海」に向けて研究発表や情報交換の場を提供され、研究文献も蓄積されてきました。また、一般社会にも情報発信され、森・川・海の一体的連携や自然環境の回復へ身近に住民運動が広がってきています。今回の若手研究者等の先進的研究など高度な学術論から身近に住民運動まで「豊かな海へ」新法制定運動に大きな力となるでしょう。

【発表された研究課題】 以下敬称略

- 大阪湾の植物プランクトンの季節変動とその要因
(香川大学 多田邦尚)
- 東部瀬戸内海における栄養塩環境の順応的管理手法に関する研究
(大阪府 中嶋昌紀)
- 海産バイオマスのメタン発酵及び堆肥化技術の開発
(大阪府立大学 大塚耕司)
- 港湾等の強閉鎖性水域の水環境再生・創造技術の開発
(奈良教育大学 藤井智康)
- 閉鎖性水域に取り残された自然砂浜の地形変化に及ぼす航走波の影響
(神戸市立工業高専 宇野宏司)
- 廃水・廃棄物における有機フッ素化合物の分析及び大阪湾圏域への環境負荷低減処理に関する調査研究
(財・ひょうご環境創造協会 吉田光方子)
- 放射性同位元素を用いた地下水湧出量・栄養塩負荷量の定量と大阪湾内の滞留時間の評価
(長崎大学 梅澤有)
- 大阪湾御前浜の生物生息環境に海底地下水湧出が及ぼす影響
(琉球大学 安元純)
- 大阪湾への地下水による栄養塩流出とその長期変動に関する評価
(広島大学 小野寺真一)
- 新たに造成される浅場の機能評価モデルの開発に向けた低質劣化に関する研究
(大阪大学 入江政安)
- 大阪湾圏の浅海域成育場が魚類生産に果たす役割の定量評価:広域調査による空間変動解析
(広島大学 小路淳)
- 分布型水文流出モデルを用いた播磨灘に流入する淡水流入量の推定に関する研究
(香川大学 石塚正秀)

平成23年度農林水産施策の推進に係る政策提案会開催される

8月4日(水)、兵庫県土地改良会館において、兵庫県農政環境部の幹部職員並びにJFグループ兵庫水産政策協議会等44名の出席のもと、県主催による「平成23年度農林水産施策の推進に係る政策提案会」が開催されました。

会議の冒頭、県農政環境部の谷口部長は、「農業、林業も含め第一次産業をめぐる環境は大きな転換期にあるため、現在、県では今後10年後を見越した施策の見直しを進めているところである。施策をより実効性のあるものとするためには、本日の提案会での意見交換は非常に重要であり、提案内容をよく吟味し、平成23年度の施策に反映さ

せていきたい。」と主催者挨拶を述べられました。

これに対し、JFグループ兵庫水産政策協議会を代表して、JF兵庫漁連・山田会長より、「次代へ漁業を継承するためには儲かる漁業への再生が重要であり、行政の具体的施策が不可欠である」と挨拶が述べられました。

引き続き、JF兵庫漁連・山口専務より「漁業所得補償制度を漁業実態に沿った措置とするための国への働きかけ」、「『県域ビジョン』推進に係る支援」、「地産地消の推進」、「アサリ資源復活に係る取組への支援」の4点を重点的に提案し、これらのテーマを中心に意見交換が行われました。

—平成23年度政策提案の内容—

1.漁業経営等の安定化対策

- ①23年度より予定されている漁業所得補償制度を漁業実態に沿った措置とするための国への働きかけ
- ②漁業経営安定対策事業の制度等の大幅な見直しに係る国への働きかけ
- ③JFグループが進める「県域ビジョン」推進に係る支援
- ④漁業経営安定のための儲かる漁業の研究開発

2.魚価向上等水産物流通対策

- ①地産地消の推進
 - (1)学校給食における「県産・国産品100%給食の日」の創設
 - (2)兵庫県認証食品の展示即売所の開設
- ②「兵庫のり」の価格向上に係る支援
 - (1)「兵庫のり」の価格向上の取組みへの支援、また、これに関する推進会議への参加、指導
 - (2)「兵庫のり」のブランド化に向けた支援

- ③「ひょうごの魚消費拡大対策事業」の継続実施

- ④県産ホタルイカのブランド化に係る助言と県関係イベントにおける協力

3.豊かな海の再生のための環境改善対策

- ①瀬戸内海を豊かな海にするための早急な新法整備の実現
- ②本県瀬戸内海沿岸域を範囲とするアサリ資源復活に係る取組みへの支援

4.その他

- ①県営栽培漁業センターの円滑な運営管理を行うために必要な財源の確保
- ②神戸漁業無線局の無線施設の維持並びに漁業無線を活用した「小型船舶緊急連絡システム」等の確立に係る支援
- ③水産加工業者に対する資金及び加工技術等の経営支援

但馬漁青連・淡路漁青連の 視察研修報告

但馬漁青連並びに淡路漁青連は、漁業経営が厳しい中、他県の生鮮魚流通体制などを見学調査し、漁業活動の活性化に資することを目的として、7月に視察研修を行いました。その結果を掲載します。

漁具知識の向上と生鮮魚流通活性化をめざして 視察研修

但馬地区漁協青壮年部連合会

7月1日、2日に視察に行ってきましたので報告します。

訪問先は福井県 小浜製網の工場と石川県金沢市の石川県漁協 金沢市中央卸売市場 かなざわ総合市場など金沢市内の数力所です。視察の目的としては小浜製網では工場見学や小浜製網の方々のお話などから、漁業用具(ロープ)の知識を得て、操業時に役立たせることが目的です。

石川県漁協を中心とした金沢では、生鮮魚流通や直販など漁協が中心となって進めている流通活性化の考え方や、但馬との違いについて意見交換を行うことが目的でした。

小浜製網(株)訪問

まず、1日目にみた小浜製網についてですが、ポリエチレン及びポリプロピレンの原材料からロープができるまでの工程などを見学させて頂きました。工場では24時間自動的に動かしている工程や、人がつきっきりで作業を行う工程など様々な工程があり、製品ができあがるまでの工程の多さ・複雑さに驚かされるとともに機械の大きさや精密さにも驚きました。

今回見学させて頂いたのは3本撚りのロープと、8打ち及び12打ちのロープで、普段から船上で目にする物が中心でしたが、それ以外にもワイヤー入りのコンパウンドロープをクロス状によったものや、マニラロープなど、商船用から小型漁船用まで幅広く多数の製品を製造しているとのことでした。

別室にて出来上がったロープが50トンの力で破断する瞬間を見学させて頂きました。破断試験の8打ちロープは力をかけるにつれて20%程度伸びた後、8打ちのうち2・3本が切れました。再度力

を加えると30トン程度までは持ちこたえ、2・3本が切れました。ただ、その状態でも全てが切れることはありませんでした。このように、組みのロープは一度に全て切れることは無く、少しずつ切れていくし、繊維が切れる音など兆候が必ずあるとのことでした。

繊維やロープには、伸びる伸びない、摩擦に強い弱い、毛羽が立つ立たない、水に浮く浮かないなど素材や工法で様々な性質があります。使用する環境や用途に合わせたロープを選択して使っていくことの大切さを改めて感じる事ができました。

石川県漁協他訪問

次に金沢での視察についてですが、まずは石川県漁協の紹介をしたいと思います。

石川県漁協は平成19年の1月に県内27漁協と漁連が合併して成立したそうです。現在は27の支所と6つの出張所を抱え、組合員数は3,531名、水揚げ高 131億円の巨大組合になっています。石川県漁協では組合合併後の販売事業の統合がとても大きな課題となっているそうで、合併から約1年後に企画流通課という課を設置したそうです。

その企画流通課の成果として平成20年4月から行っているのが、この石川中央魚市での朝セリです。石川中央魚市は金沢市中央卸売市場に2社ある荷受会社の1つです。朝セリでは定置網の物を中心に巻き網や浅海の物を扱っているそうで、冬場は9時から、夏場は8時半から行っています。視察した当日は、定置物と浅海の物が並んでいました。この朝セリは県内のほとんどの支所から荷を運んで来ているそうで、今年で3年目のことです。取扱量は徐々に増加しているとのこと、今年



ロープ破断試験見学の様子

は県外出荷にも力を入れていきたいとのこと。値段については浜値より良く、漁師の手取りで1割～2割程度の増加があるようです。漁協にとっても取扱金額が増加するなどプラスが多いようです。しかし、もともと浜で買われていた仲買さんにはマイナスが多く、相対取引を実施するなど徐々に改善はしているものの、現在もその対処に頭を悩ませているとのこと。

視察では、企画流通課の福平さんに、朝セリ会場から場所を変えてゆっくりとお話を伺いました。石川県では先ほどの朝セリの他に、イオンとの直接取引を行っていて、その回数も当初の月1回から月4回へスルメイカではほぼ毎日行っているそうです。また、漁協から県外のスーパーや仲卸、回転寿司店などにも直接販売しているそうです。こうした取り組みに力を入れている理由について福平さんは「魚価の安値安定」によって漁師の手取りが減っている。俺が何とかしなくちゃ!!と思ったとのこと。

今まで述べたような取り組みによって成果は確実に出ています。まずスルメイカは、水揚げしたその日のうちに東京のスーパーに並ぶような流通経路が確立できたそうです。15時くらいに店頭で並ぶため、その日の夕食の食卓に上るようになったとのこと。東京では非常に反響が大きいそうで扱ひ量は増加しているそうです。漁師の手取りについては増加しているし、魚価単価も上昇傾向にはあるとのこと。しかし、まだ道半ばとのこと。これからが本番だとのことでした。

今までお話ししていたのは、大半が定置や浅海についての話でした。今後は底曳きについても新しい取り組みをしていきたいとのこと。その一つが洋上仕立てです。沖でエビをパック詰めにして、そ



石川中央魚市の見学の様子

のままスーパーの店頭で並べるといふ物です。非常に面倒で、参加したがる船が少ないかと思っただが、20隻のうち8隻が参加すると言ったとのこと。福平さんは非常に勇気が出たと言っていました。

まとめ

まとめに入ります。今回の石川県漁協の取り組みは「福平さん」という1人の漁協職員が果たした役割が非常に大きいと感じました。

石川県は加工業者がほとんど無い県だそうです。そのため獲った魚は生鮮で流通させるか、冷蔵や冷凍でストックして出荷するしか方法がないとのこと。つまり、石川県の魚を流通させる武器は「鮮度を追求する」ことで、その方法が直販である。「直販を強化するために動けるのは、自分たち漁協職員しかいない。」と思われたそうです。仲買さんの抵抗もあったでしょうし、初めのうちは様々な形の反発もあったと思いますが、この取り組みが前に進んでいるのは「何とかしたい!」という強い気持ち「信念を持った人の力」だと感じました。漁師としても、しっかりと信念を持って漁に励みたいと感じました。

もう1点は、消費者に目を向けて漁をすることの必要性です。先ほど少しふれましたエビの洋上仕立てのように、消費者が求める物や買いやすい物を作る、《漁師=生産者》なんだと意識することが大切だと思います。石川県では「洋上仕立て」のような取り組みに手を挙げる船が増えているという現実があります。私も自分の獲ってきたカニや魚に自信を持って、「売ること」「買ってもらうこと」「食べてもらうこと」を考えて、自分からも提案できるような漁師になっていきたいと思っています。

視察研修で鮮魚流通と魚養殖の見識拡大

淡路地区漁協青壮年部連合会

① JF庵治 7月18日(日) 14時～

応対 代表理事専務 打越貞光氏
小型底曳網委員長 濱俊二氏

行程の都合上、午前の日曜市を見学することはできなかった。

漁協の概況、日曜市について資料の通り説明された。

水揚げ金額は漁船漁業が約10億円、養殖漁業が約10億円、合計約20億円。リーマンショック以降魚価が下がり低調である。

漁船漁業の魚は地元庵治町に1～2割、高松市の市場に6割、残り2～3割を京阪神に出荷している。養殖魚は殆どが都会に流通されている。

日曜市は平成11年に着工された。総事業費は7,000万円。自己負担が1/6で、あとは国と町の補助。漁業者はセリより2～3割高い値で売り、新鮮な魚を消費者にスーパーより安く買って頂いている。日曜市での漁業者の水揚げは普段の市より少し良くなっている。

開店時間は午前8時～9時。漁業者は4交代制で出品している。前日の土曜日は休漁日だが出品するときは出漁する。土曜日に天候が時化たときは魚を揃えるのに苦労する。人気のある魚種はカレイ、エビ。

当初は順調だったが、香川県内の他の漁協で日曜市、直販が行なわれるようになり、客が分散し業績は下がっている。ただ、常連客はついている。平成21年度の入場者数は8,610人、金額1,620万円。組合は5%の手数料を取っているが、電気代等の維持費が多くかかり、赤字経営。



JF庵治での意見交換の様子

② JF引田 7月19日(月) 8時～

応対 専務 杉浦要氏
青壮年部長・香川県漁青連会長 服部秀俊氏
のり養殖業者 1名

服部部長の漁船に乗り、カンパチの給餌を見学させて頂いた。

小割の大きさは12×12×20m。一つの小割に7,000尾を養殖している。ゴールデンウィーク明けに他県から1.5Kgサイズを仕入れ、3.5Kgまで育て9～12月に出荷する。餌は生餌とビタミン入りの配合飼料を混ぜたもので、機械で与えている。1Kgの魚を育てるのに7Kgの餌量が必要。

カンパチの群れが摂餌する様子は壮観だった。

そのあと漁協の事務所に帰り、意見交換となった。

漁協の概要について、資料に沿って説明された。

養殖鮮魚を中心に販売事業取扱高は年々減少している。魚養殖については餌料の高騰、不景気による魚価の低迷で、経営体数が香川県で以前は百数十件だったのが40件に減っている。引田漁協では現在12件。ハマチだと1Kgあたり400～500円まで下がると経営が苦しくなる。

平成21年度ののり養殖は3月中旬まで色調が維持し生産できたので、4億6,600万円とますますの結果だった。

魚は京阪神へ多く出荷されるが、流通、販売、消費までに日数が経ち、鮮度の落ちたものが食べられている。地元で鮮度の良いものを多く提供していきたい。学校給食へ相談しているが、給食は1食あたりの単価が決まっていて安く、香川県のブリの切り身が一つ150円と言うと使ってもらえない。これは淡路島の給食でも同様。



JF引田のカンパチ養殖場見学

服部部長はインターネットのサイト「にっぽん地魚紀行」で通信販売を行なっている。米糠に含まれるオリザノールという成分を餌量に混入し、アピールにしている。納入先は居酒屋、ホテルなど。魚価が低迷し、販売法を改革していくのは全国的な課題だが、自分で魚を売るのは手間がかかり、リスクを負うことになる。

③まとめ

JF庵治、JF引田を訪問し、漁業者の共通の課題である流通について多くの話を聞き勉強になったというのが参加者全員の感想で、具体的には以

下のような意見が出された。

- 地元で新鮮な魚を多く売って行きたいというのに同感。
- 日曜市、通信販売など我々とは違う魚の売り方を知った。
- 京阪神への販売ルートが参考になった。
- 魚養殖の現場を見ることができた。
- 流通についての知識が幅広くなった。
- もし、今後自分たちが産直で魚を売っていくなら集客が課題。

全国漁業協同組合学校修学中の森さんが 地元実習を行いました

寄稿：JF兵庫漁連 指導部

本年4月より、全国漁業協同組合学校に入学し、勉学に励んでいるJF坊勢の森 陽祐さんが、夏期休暇を利用して、1か月間の地元実習(7/12～8/12)を行ないました。



森 陽祐さん

森さんは、JF職員から全国漁業協同組合学校に入学している為、地元実習では本来のJF販売業務の他、多岐に亘る業務を実習されております。「全国漁業協同組合学校では、他県の人との漁業学習をとおして、友人も出来、多くの知識を習得することができるので、今後、仕事だけでなく、漁業の発展にも生かして行きたい。」

と、これからの意気込みを聞かせてくれました。

現在、JF坊勢では、7名の全国漁業協同組合学校卒業生の方々が職員として在籍しています。なんと、森さんの父親である森 幸春 総務部長も同校の卒業生で、森部長は、親子2代の就学について「非常に光栄なこと。私が学んだ頃とは漁業の状況が変わっているが、さらに研鑽を積んで視野を広げ、漁協のために生かして欲しい」と語ってくれました。

同JFの森 光則 参事からは「来年も全国漁業協同組合学校に職員の入学を予定しており、さらに、振興基金が開催する大輪田塾にも積極的に入塾する方針で、これからも人材の育成に前向きに取り組んで行く」との力強い思いを伺いました。



JF坊勢事務所



日常業務に励む森陽祐さん

各JFにおかれましても、明日の漁業を担う組合員や職員の研修の場として、全国漁業協同組合学校やJFグループが開催する各種研修会等を積極的にご活用ください。



森 幸春 総務部長

全国漁業協同組合学校とは

「協同組合精神を持った漁協職員の養成」を目的としたJF(漁協)グループで唯一の教育機関で、昭和16年に開設され、JF(漁協)合併や自立JFの経営を担う職員となるための経営実務や資格取得を強化し、目標を持った意識の高い学生の教育を実施しています。

現在、平成23年度の学生募集中です。詳しくは同校のHPで。

全国漁業協同組合学校 <http://www.jf-net.ne.jp/kumiaigakkou/>

兵庫県水産技術センターが研究発表会・見学会を開催

8月25日(水)、兵庫県水産技術センターにおいて、研究発表会及び見学会が開催されました。この催しは、同センターがどのような研究をしているのか、兵庫県ではどのような漁業が行われているのか等を広く一般県民に紹介するため、毎年、夏休みのこの時期に行っています。

午前中に行われた見学会では、顕微鏡でプランクトンを観察したり、魚拓製作やロープワークを体験するお楽しみコーナーが設けられ、集まった多くの親子連れなどで大いに賑わいました。

午後から行われた研究発表会では、同センターから「播磨灘における貧酸素水域の発生のしくみ」、「マコガレイの卵から幼魚期までの移動のようす」、「ノリ養殖施設を利用したヒジキ養殖試験」、「イオン照射によるノリの品種改良試験」、また、ひょうご豊かな海づくり協会から「サザエ種苗生産技術の現状」など、最新の研究成果が分かり易く発表されました。

いずれの発表も、これからの水産の技術開発に重要な研究課題で、漁業者や系統団体、県、市民団体等、会場に詰めかけた120名の参加者は真剣に聴き入り、発表後には予定時間を超えて熱い質疑応答が繰り返されました。



上：研究発表の様子
下：見学会の様子

大輪田塾だより

平成22年度大輪田塾修了論文発表会開催

8月23日(月)、兵庫県水産会館にて平成22年度大輪田塾修了論文発表会が開催され、山田隆義塾長をはじめ、運営委員や県・漁協系統役員出席のもと、大輪田塾4期生4名が、それぞれ任意の研究項目で作成した修了論文を発表しました。

論文発表者は緊張の中、それぞれのテーマについて研究成果を述べ、その後活発な質疑応答が行われました。また、全員の発表後、運営委員の反田實県水産技術センター所長から「漁業経営の安定と将来への展望や消費者

への魚食普及、漁業資源再生への漁協の取組など、さまざまな課題に取り組まれた皆さんの発表に我々も大いに啓発された。これからもこの成果を糧に更なる発展と活躍を期待する。」との講評があり、全員の修了論文の単位が認定されました。

発表者、指導員の皆さんお疲れ様でした。



経費削減による漁家経営の安定について JF伊保：大西 正起 指導員：山條 喜宣(加古川農林水産振興事務所)
若者が希望の持てる魅力ある漁業の実現に向けて JF姫路市：喜多 隆信 指導員：内田 健二(県姫路農林水産振興事務所)
坊勢漁協の輪番休漁事業における取り組み ～垣間見る未来の坊勢～ JF坊勢：上西 典幸 指導員：田中 洋(県水産技術センター)
魚ばなれを解消するにあたって JF但馬：磯田 和亨 指導員：眞鍋 厚(県但馬水産事務所)

兵庫みらい産のトマトを使った トマトドレッシングを発売

JA兵庫みらいは特産品第2号として、管内産の完熟トマトを使ったトマトドレッシングを開発しました。トマトの風味をそのまま生かしたフレッシュな味わいに仕上がっており、7月8日から農産物直売所「かさい愛菜館」で先行販売され、18・19日には試食会を開催しました。

JA兵庫みらいでは今年度から、管内の農産物を使った加工品の開発に取り組んでおり、トマトドレッシングは、特産品第1号の黒大豆を使った「薄甘納豆」に続く第2弾で、現在は同直売所のみでの販売ですが、今後は三木や小野の直売所でも販売する予定です。

ドレッシングは、管内の特定農家で栽培された完熟のトマトをたっぷりを使用した上、オリーブオイルとバジルが入っており、トマトのおいしさをより引き立てたさわやかな味になっています。そのため、サラダにはもちろん、トマトソースとしてパスタなどのさまざまな料理にも活用ができます。

18・19日に同直売所で開かれた試食会では、ドレッシングを使ったサラダとパスタが来店者に振る舞われ、試食した来店者からは「食べやすくおいしい」「トマトの風味が生きている」「パスタにかけるだけで簡単にできるからいいですね」ととても好評でした。



新発売のトマトドレッシング

トマトドレッシングは
1本190ml入りで、
480円。
お問い合わせは
JA兵庫みらい 営農部
まで
TEL 0790-47-1282

<http://www.ja-hyogo.or.jp/>

生活協同組合コープ自然派兵庫 2010年 田んぼの生き物調査in豊岡

生活協同組合コープ自然派兵庫は、2010年度の「田んぼの生き物調査」を7月11日(日)に豊岡で行いました。

5回目となる今回、初めて当日が雨になりましたが、組合員大人39名・子供37人も参加があり、スタッフ・生産者を含めると総人数101人もの大人数になりました。

調査の場所は昨年と同じ祥雲寺地区で、生き物調査では雨のため環境調査は行わず、土壌調査だけを行いました。

前月の6月30日に行われた「ICEBA2010(生物の多様性を育む農業国際会議)」に向けた事前調査では、同じ田んぼで多くの生き物が確認されていて、その慣行・減農薬・無農薬での違いがはっきりと判るデータ結果の説明も受けていたにもかかわらず、時期の問題か、雨のためか、残念ながら泥の中のイトミミズやユスリカは少ない結果でした。

それに比べ、雨の中、カエルやトンボのヤゴなどを追っではしゃいでいた子供達が水路で見つけた生き物は、アキアカネ・イトトンボ・サナエトンボのヤゴをはじめゲンゴロウ幼虫・タイコウチ・コムズムシ・カワニナや蛙もトノサマガエル・ニホンアカガエルとアメリカザリガニ・メダカそしてメダカなどを餌にしている肉食のドンコなど、多種に亘りました。雨や泥でにごった水路の中に網を入れ、すくい上げた網の中を覗き、生き物を探す子供達の輝く目や好奇心には感心させられます。

今回もリピーターの方が多く、生き物調査が根付いてきたと認識しており、これからも稲刈りなどのイベントで、もっと水田やお米に感心を持っていただけたら嬉しい限りです。



雨の中でも大勢で調査



カウント作業中

<http://www.coop-hyogo-union.or.jp/>

夢と勇気と感動と。熱き挑戦者たちの奇跡のステージ!

A New Generation of Circus Entertainment

ライガー ミラクル イリュージョン

木下大サーカス
Liger Miracle Illusion & Kinoshita Circus

～神戸公演～ 9/11(土)～11/9(火)

神戸市北区 イオンモール神戸北 特設会場

平日招待券 10組20名様プレゼント

郵便番号、住所、氏名、電話番号と「木下大サーカス招待券希望」と記入の上、下記の連絡先までお送り下さい。

連絡先 (財)兵庫県水産振興基金

メールアドレス: h.sui.kikin2@triton.ocn.ne.jp

FAX: 078-919-1336 振興基金: 石川まで 9/30(木) 〆切

※当選は発送をもってかえさせていただきます。

「常に最高であり続ける誇り」…創業者の心を継承して1世紀。木下サーカスが伝統のなかで磨きあげ、鍛えあげてきた名人芸と、世界一流の海外アーティストたちが競演するダイナミックなスペクタクルショー。興奮と感動に満ちた栄光百年をこえた記念ツアー、「木下大サーカス」10年ぶりの神戸公演です。

子供たちに楽しい夢を、若者にバーチャルではない迫真のライブ芸の魅力を、大人の方たちには去りし日の想い出を! お子様の感動情操教育の場として最適です。世代を超えて共感をわかち合えるひとときを、ぜひおそろいでお楽しみください。

会場のご案内



旬に想う

写真と文
遊方子

小さな美術館で

◆写真展開催の案内を貰って出掛けた。写真教室で腕を磨く人達の、1年の成果を見せる展示である。力作が多くて素晴らしいものだったが、特殊な装置を使っただけの撮影が目をついてきた。そうした写真は、通常では撮れない珍しさがある、しかし、写真とは「素直に自然を見つめたもの」と筆者は考えるため、演出した写真と同様に好きになれなかった。造られた形や人物よりも、ネーチャーな被写体や風物に魅かれる。風土性の溢れた日本らしい風景写真が、少なくなったが、これも社会変化というべきだろうか。衣食住のすべてが便利に快適になるほど、周囲が空々しく感じられて、少し寂しい気はしている。

◆「墨彩展」と銘うった個展を見に三田へ回った。三田は初めてのためウロウロ捜したが、会場はJR三田駅から僅かの所にあった。本当にささやかな展覧会だったが、懐かしい時代を描いた墨彩画ばかりである。人力車の車夫、板塀の続く細い坂道、道端でメンコをする子供ら、目刺しを焼くおばさん、海苔をつくる漁師のお上さんなど、それぞれが実に懐かしい景物ばかりで、楽しいひとときになった。奈良の二月堂への道もあり、良き頃を思い出したりした。

◆町中のギャラリーでの展示も、スペースが広い場合は見応えがして楽しいものだが、大抵は喫茶店に付属した形式が多い。客で混むような店舗だと作品も遠くからチラチラ見る程度で終

わり、客の少ない店では展示品だけを見るには抵抗があり、どうもじっくり来ない。展示された好きな作品の前に、屈託なく過ごせる所が良く、展示スペースは客席とは隔離された所に望みたい。狭いギャラリーは、他人のため席を譲るような気持ちでして実に面白くないし、通り縫りに立ち寄ったものでない場合、少し腹立たしく更に残念な気分になる。印象も美術館の場合と大きく違って散漫なものになってしまう。

◆兵庫県の西北、音水湖畔に「和弘美術館」があった。規模は小さいが展示スペースが意外に広く、毎回40~50点の作品を展示していた。その日「水辺の風景画」をテーマに様々なジャンルの作品が並び、油絵、日本画、墨絵などの競演という感じで、版画では川西祐三郎の神戸港や村上暁人のカップが並んでいた。小さな作品も多かったが、素描風の淡彩画に良いのが見られた。入館料に匹敵する内容で、訪ね甲斐があり嬉しい気分、美術館の上階にあるフランス料理も美味しく戴いた。数年後、再訪したら建物は閉ざされ、草に覆われ風雨に晒された感じで実に寂しい思いがした。閉館を惜しむ美術館である。



彼岸花 (杜町にて)

ニッポンの今を知り、未来をつくるための調査です。

10月1日は、国勢調査。



10月1日 国勢調査を実施します。

- ▶ 国勢調査は、平成22年10月1日現在、日本に住んでいるすべての人及び世帯が対象です。
- ▶ 調査結果は、さまざまな法令に基づいて使われるほか、社会福祉、雇用対策、生活環境の整備など、私たちのより良い生活のために役立てられます。
- ▶ 調査票へのご回答、よろしくお願いいたします。



総務省統計局

表紙の言葉



大阪湾内の自然海岸、御前浜・香櫨園浜

本文の「大阪湾圏域…再生・創造に係る研究」に採択された研究課題の1つに西宮市の御前浜に関する研究があります。御前浜は大阪湾内に残された数少ない自然海岸で、市民がチーム「御前浜・香櫨園浜 里浜づくり」を設立し、県阪神県民局の協力のもと、この浜を未来に残す活動を実施しています。撮影した4月下旬も家族で潮干狩りを楽しんでいる光景が見られました。

参考URL <http://www.omaehama.org/>
御前浜・海辺のひろっぱ ~新たな公共性に支えられた海辺~